

# 大高神話物語

作：稲垣 菜月

協力：株式会社連空間設計代表取締役今村敏雄

大高歴史の会の皆様

これははるか昔、神話のころより  
尾張の国火高の里、現在の緑区大高町に伝わる、  
ミヤスヒメとヤマトタケルのお話です。



ある時、大和の国の勇敢な皇子タケルは、天皇に従わない東国の神を倒すように言われ、東の国に旅立ちました。旅の途中、伊勢にいる叔母さんのヤマトヒメノミコトのところへ立ち寄ると、タケルを心配したヤマトヒメノミコトはこう言いました。

「この天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）を持ってお行き」  
なんとそれはヤマタノオロチという大蛇のしっぽから出た剣でした。

タケルは剣を受け取り再び旅立ちました。



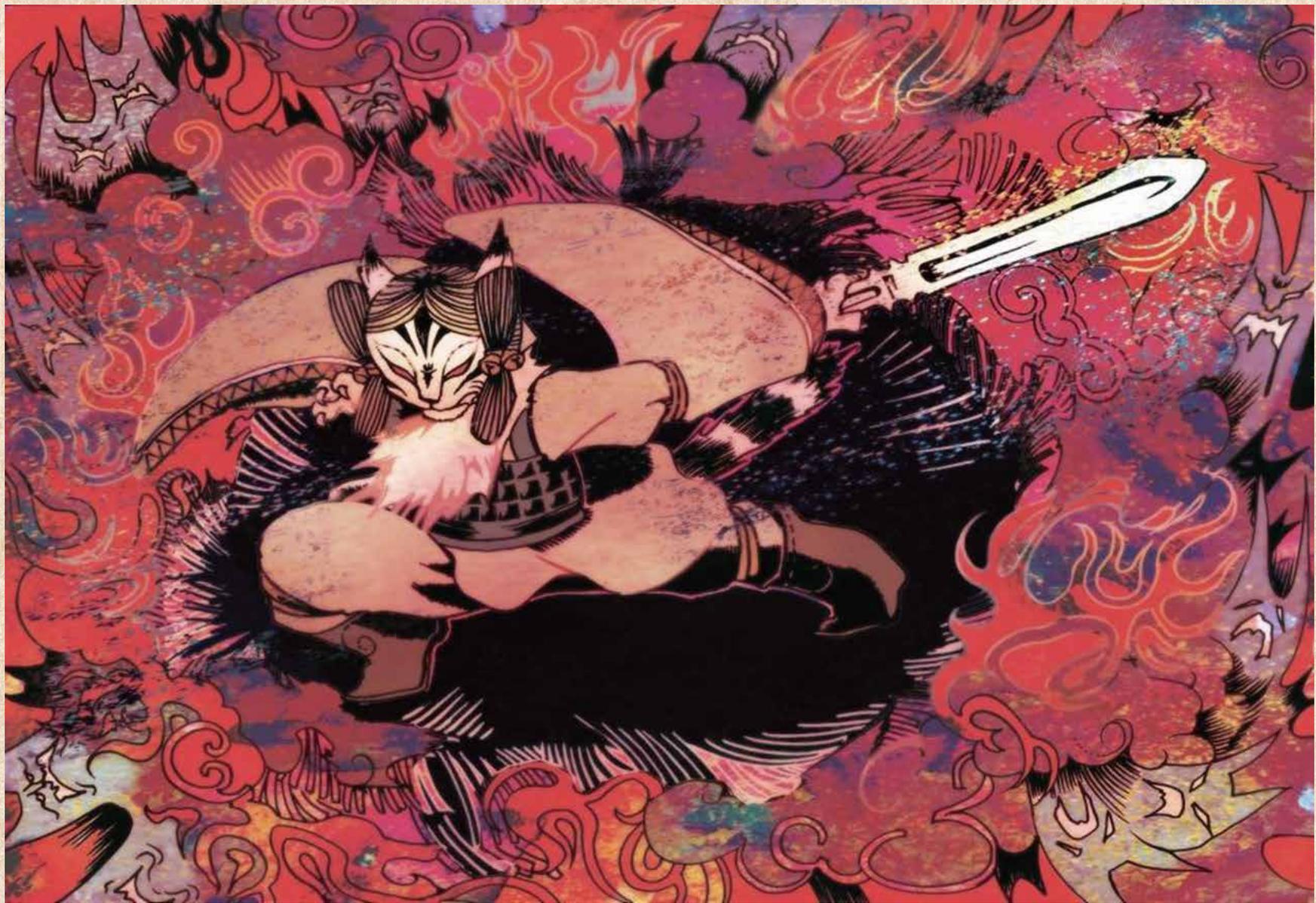
伊勢から船に乗りはるばる尾張の国に着いたタケルは 大高にお屋敷をもつ尾張の国造に招待されました。そこでタケルは運命の出会いをすることになったのです。「なんと美しい人なんだろうか！」

タケルは国造の娘であるミヤスヒメに一目で恋に落ちました。

「なんて素敵な人なのかしら」ミヤスヒメもまた、タケルに恋をしました。

しかし、タケルはまだ東国へ向かう旅の途中です。「私が東国から無事帰ってきたら結婚しよう」

タケルはミヤスヒメとの結婚を約束し、再び東の国を目指し旅に出ました。

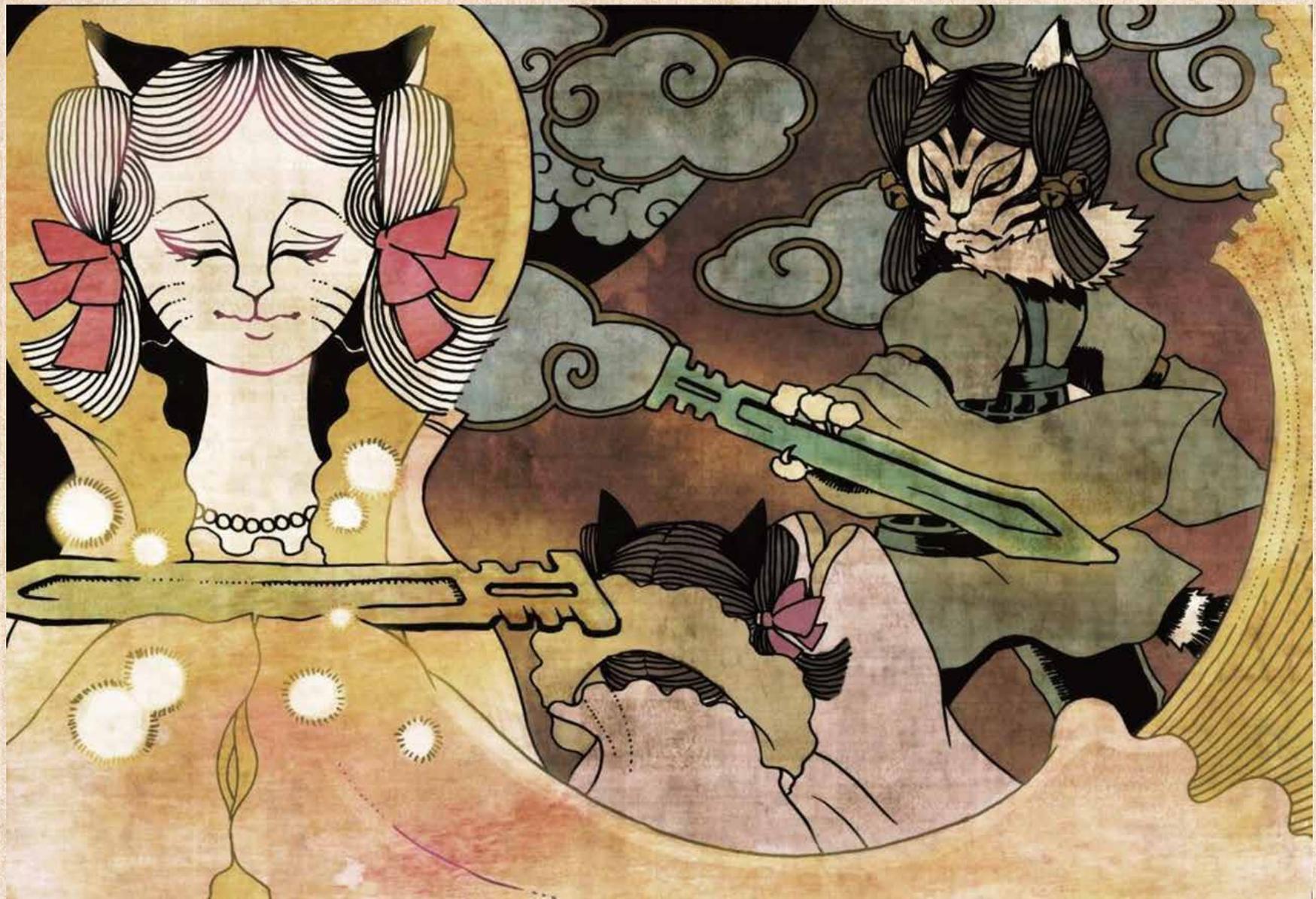


はるばる駿河の国に入ったとき、タケルに事件が起こったのです。  
なんと草原に住む悪族によって、周りの草に火をつけられてしまいました。  
「どうしよう！このままでは焼け死んでしまう」どんどん火は迫ってきます。もう駄目かと思ったそのとき、  
「そうだ！」 タケルはヤマトヒメノミコトに貰った天叢雲剣で、周りの草をえいや！と薙ぎ払いました。  
するとどうでしょう、火はたちまち悪族に向かいタケルは難を逃れました。  
「この剣のおかげで助かったんだ。記念にこの剣を草薙の剣と名付けよう！」



こうして東国の神々を倒したタケルは、はやる気持ちを抑えながら  
尾張の国へ無事帰り、ミヤスヒメと結婚しました。

大高の地は昔海が近かったので、  
二人は毎朝、潮騒で目覚めたといわれています。  
そのため、今はこの地に寝覚の里の記念碑が立っています。



しかし！ミヤスヒメとの幸せな時間も束の間、  
近くの伊吹山で山神が暴れているという話を聞いたタケルは  
「この草薙の剣を私と違って持っていてください」と言って、  
別れを惜しむミヤスヒメに剣を預けて  
山神を倒しに出かけて行きました。



伊吹山に登ったタケルは、牛のように大きな白い猪の姿をした山神にこう言いました。

「お前が山神か。素手で討ち取ってくれるわ！」

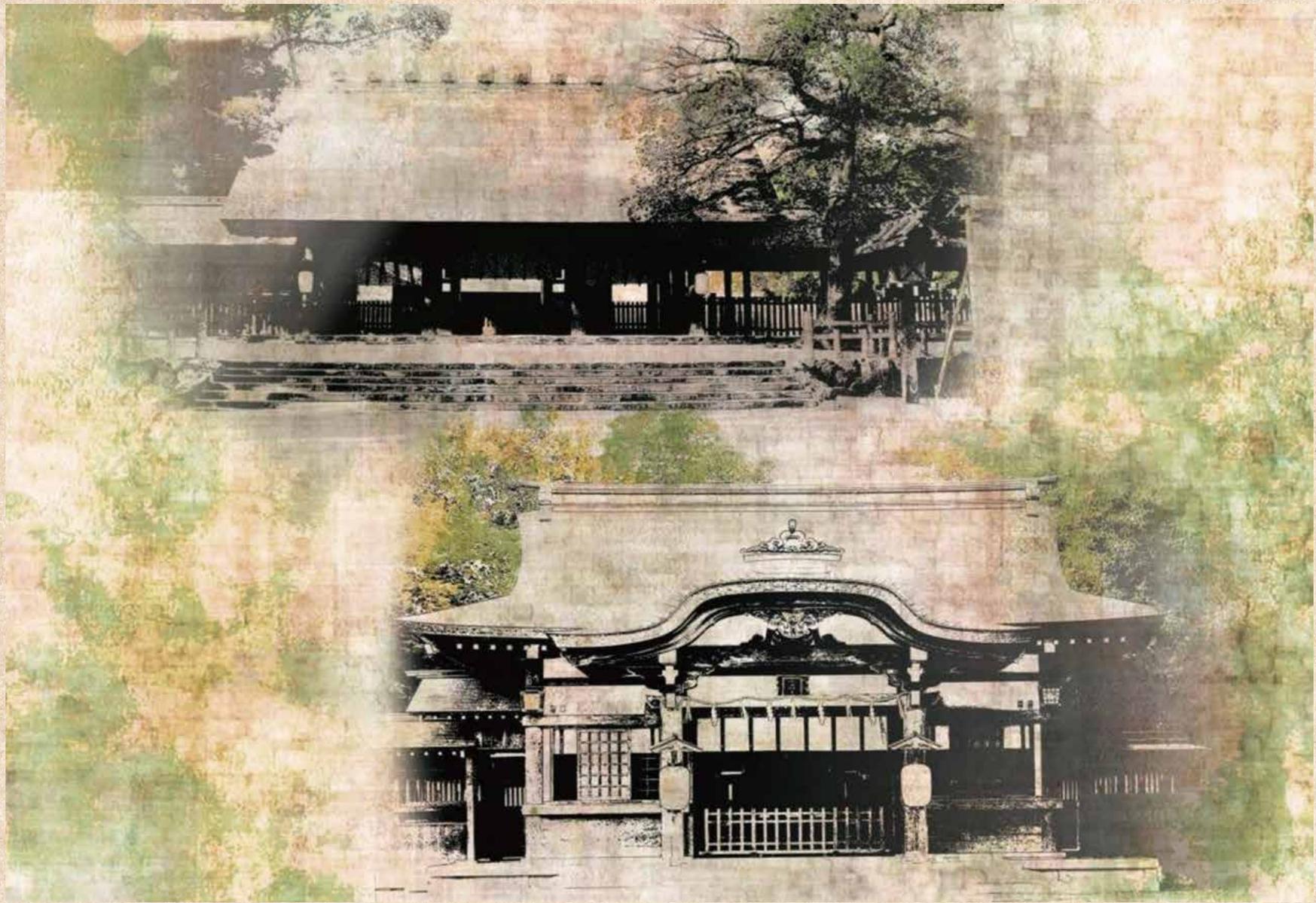
しかし、山神は大雨やヒョウを降らせタケルを困惑させ、山を降りる頃にはタケルは病にかかってしまいました。それでも何とか大和に帰ろうと峠を越え山を越え歩きましたが、ついに能褒野という場所で倒れてしまいました。

「ミヤスヒメに託してきた草薙の剣よ、どうかそれを私と違って・・・」

そうするとタケルはついに力尽きてしまいました。



『最後にひと目、ミヤスヒメに会いたい』  
亡くなったタケルは白鳥となり尾張へ飛び立ち、会いに行きました。  
「たとえ一緒にいた時間が短くても私はあなたのことを忘れません」  
ミヤスヒメはそう言って、タケルの形見である草薙の剣を  
お屋敷に安置し、大切に守り続けました。



年をとったミヤスヒメは剣を熱田の地に移しました。  
そこが今で言う熱田神宮であり、草薙の剣は三種の神器として祀られています。  
ミヤスヒメが亡くなった後はミヤスヒメを祀るため  
尾張の屋敷跡に氷上姉子神社が誕生しました。  
これが大高に伝わる神話の恋のお話です。